

迷蝶などの記録

県内で採集された迷蝶、人為的に移入され県内に住み着いた種、過去に採集例はあるがその後長期間採集例がない種などの記録は次の通りである。

1 ミカドアゲハ

(*Graphium doson*)

【分布の状況】

国外では東洋熱帯に広く分布。国内では紀伊半島、四国の太平洋側、中国地方瀬戸内側に点在し、九州、南西諸島では広く分布する。

県内の記録は2例あるが古い記録で、いずれも淡路島である。その後県内では確認されておらず、これらの個体は四国か和歌山から飛来したものか又は飛来した個体が産卵し、一時的に発生した個体と考えられる。

本種は現在は、瀬戸内海沿岸沿いに東に分布を拡大しており、隣の岡山県笠岡市では3年連続(1999~2001)、井原市でも2年連続(2000~2001)発生が確認されている⁹⁶⁶。岡山県南西部では定着している可能性が高く、近い将来は兵庫県南西部まで分布が拡大する可能性は高い。四国、和歌山から淡路島への分布拡大の可能性とともに注目する必要がある。

【兵庫県における土着の可能性】

県内で本種が生息するためには、冬期の気象と食樹の条件が満たされなければならない。

気象については、採集例が多い岡山の気象と兵庫県南部とはさほど差異がないことや、温暖化現象で冬季の気温が上がり越冬には好条件であることなどがある。また1979年12月から1980年3月にかけての姫路市における蛹の野外での越冬実験では平均気温が5.25℃、最高平均気温が10.98℃、最低平均気温が0.43℃、最低極値-6.1℃、0℃以下の日数が4カ月で64日という気象条件でも越冬し、越冬できるだけの耐寒性は備わっており問題はないものと思われる。また、食樹についても、オガタマノキは少ないながら、神社などに大木があり、タイサンボクは街路樹、庭木、公園の植木として各地に多数植栽されている等土着の条件は整っているため、近隣の生息地から分布を拡大し、個体数の密度を高めながら今後県内にも分布を広げ土着していくものと思われる。

【成虫の発生回数】

岡山県では5月上旬に1化が羽化、6月中旬に若令幼虫、終令幼虫が確認され、6月下旬には終令幼虫、前蛹、蛹がみられた。また7月上旬に羽化する蛹と羽化しないまま越冬する蛹があり、一部は2化している可能性が高い。

【幼虫の食餌植物】

難波通孝(2002)によると、岡山県ではオガタマノキで連続発生しており、幼虫の数も多いことから定着するためには重要であり、タイサンボクは、分布拡大の途中に産卵に適した木があれば利用されるものと思われる。

【採集記録】

淡路市(津名町) 佐野 1♂ 1958 登日邦明³⁸⁴
(赤斑型、春型のような)

淡路市(津名町) 志筑明神 2exs 1964 奥野修久⁸⁵

2 ホソオチョウ

(*Sericinus montela*)

【分布の状況】

朝鮮半島から中国、ロシア沿海州に分布する。国内では生息していなかったが、人為的に移入されたものが1970年頃から東京都で確認され、その後山梨県、神奈川県などでも自然状態でウマノスズクサを食草として発生を繰り返している。武庫川流域では武庫豊町より下流で1999年頃放蝶されたようで、2年目以降は見られなかったが、2004年7月に再捕獲されているようである。

【採集記録(県内初記録)】

神戸市東灘区本山南町3丁目 22-IV-1990 倉橋英士⁶⁷⁵

(当時8才の倉橋君の採集したものが、同年夏の鑑定会で確認された)
尼崎市武庫豊町 11-X-2004 斉藤千恵⁹⁷¹

3 メスジロキチョウ

(*Ixias insignis*)

1929年の6月下旬に採集されているが、この記録は兵庫県はもとより国内でも最初の記録のようである。その後本種の採集記録は県外において少ないながらもあつてあるが、県内ではこれ以外に聞かない。

【採集記録】

西宮市 1♂ 下旬-VI-1929 笠原辰男⁹¹³

4 ウラナミシロチョウ

(*Catopsilia pyranthe pyranthe*)

西宮市甲山南麓の夙川上流で大西俊和氏(当時甲陽中学校の生徒)によって採集されたことが東(1960)で報じられている。県内ではこれが唯一の記録である。

【採集記録】

西宮市甲山南麓 7-VIII-1956 大西俊和⁶⁶

5 タイワンモンシロチョウ

(*Artogeia canidia*)

長崎県対馬に分布することは周知のとおりであるが、その他の地域では八重山諸島での記録が多く、迷蝶としての記録は愛知県、島根県、福岡県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、東京都などがある。

県内で採集された場所は、神戸港の北東約7kmの地点のようで、足立(1980)に写真が掲載されているが、新鮮な個体である。その他にNature Study 23巻11号の4ページ(通巻124ページ)には同場所で同人が1971年8月10日に1♀を採集した記録が掲載されている。同じ記録かどうか不明であるが、記録として表示している。

【採集記録】

芦屋市岡本 1♀ 22-VIII-1975 足立尚計⁶⁷

芦屋市岡本 1♀ 10-VIII-1971 足立尚計⁶⁸

6 ウスキシロチョウ

(*Catopsilia pomona pomona*)

本種は以前ギンモンウスキチョウとムモンウスキチョウの2種に分類されていたが、同種であることがわかり、近年ではウスキシロチョウのギンモン型、ムモン型となっている。

県内で採集された個体で明石市のものはギンモン型となっており、その他の記録も、山本(1965)によればギンモンウスキチョウとなっているので、4例ともギンモン型と思われる。

【採集記録】

西宮市菊谷町 1♀ 18-VIII-1958 仲谷 勝⁶⁵

〃 〃 1♂ 3-VII-1960 仲谷 勝⁶⁵

西宮市今津高潮町

甲陽学院中学校校舎内 1♀ 10-VIII-1960 浅野裕郎⁶

明石市小寺 1♀ 12-VIII-1964 小川 進⁶⁶

7 ベニモンカラスジミ

(*Fixsenia iyonis iyonis*)

国外では中国大陸西部に分布し、国内では長野、静岡以西の本州と四国に分布する

環境省のレッドリストでは準絶滅危惧に選定されている。隣の岡山県では数多くの産地があるが、県内では宍粟市波賀町原と川副・若林(1976)の兵庫県西北部という記録しかない。その西北部の記録も採集者が明らかにならないため産地は不明である。

宍粟市波賀町原の記録は1979年2月6日に木村三郎氏によって12卵が採集され、飼育の結果8頭が5月中頃に羽化している。

採卵した原の赤西溪谷の入り口付近一帯では少ないが食樹のコバノクロウメドキはみられるが、その後再三の調査にもかかわらず発見されていない。また、スジボソヤマキチョウと食樹が同じであるので、その分布域を調べ県内各地の調査もされているが産地はその後見つかっていない。

【採集記録】

宍粟市波賀町原 12卵 2-II-1979 木村三郎⁶⁹

兵庫県西北部⁶⁶

8 ヤエヤマムラサキ

(*Hypolimnas anomala truentus*)

国外ではフィリピン、ボルネオ、スラウェシ、マレー半島、スマトラ、ニューギニアなどに分布する。

国内では八重山で毎年採集され、越冬も確認されているが、毎年越冬しているかどうかは不明である。

本州以南では迷蝶として採集されているが記録の多いリュウキュウムラサキと比較すると、本種の採集記録は極めて少ない。

【採集記録】

相生市川原町 1♂ 12-VIII-1971 石井満補⁷⁰

洲本市鮎屋ダム1♂ -IX-1988-91 菊池宏美⁶⁹

洲本市宇原 1♂ 11-VIII-1990 菊池宏美⁷⁰

9 リュウキュウムラサキ

(*Hypolimnas bolina*)

国外では東洋熱帯に広く分布し、♀には地理的変異が著しく、台湾型、大陸型、フィリピン型、赤斑型の4型が知られている。

国内では本州以南で迷蝶として採集されており、奄美大島以南で毎年採集されているが、八重山でも土着しているかどうかは不明である。

これまでに県内で採集された♀は4頭であるが、確認した2♀はいずれも赤斑型(ジャワ型)とよばれているものである。赤斑型はパラオ諸島、マリアナ諸島、ニューギニア、ジャワ、マレー半島などに分布しているので、これらの地域に由采のある個体と思われる。

【採集記録】

- 伊丹市武庫川仁川合流地点 1ex 11-IX-1987 新家 勝⁵³
宝塚市武田尾 1♂ 12-IV-1963 岡村八郎⁵²⁹
西宮市田近野町 1♂ 11-IX-1987 新家 勝¹²⁷
西宮市内 1♀ 12-X-1957 田中 蕃³⁰⁰
芦屋市川西町 1♂ 24-IX-1989 吉原真一郎⁷⁸³
小野市西脇町 1♂ 31-VIII-2000⁸⁵³
姫路市豊富町神谷 1♀ 24-VIII-1978 山本邦明(写真)²³
相生市川原町 1♂ 3-XI-1967 松尾和雄⁷⁹⁷
相生市 1♀ (台湾型) 12-VIII-1971 石井⁷⁹⁷
たつの市御津町 1♂ 1998 山下 泰史
新温泉町(浜坂町)城山 1♀ 20-VIII-1988²⁸¹
新温泉町(浜坂町)久斗山 1♀(目) 20-VIII-1988 黒井²⁸¹
豊岡市 1ex(目) IX-1984 木下³⁰⁶
洲本市宇山 1♂ 20-VIII-1959 梅本見義³⁸⁵
南あわじ市(南淡町)灘黒岩1♂ 30-VIII-1968 藤平 明⁷²³
南あわじ市(南淡町)灘大川1♀ 28-VIII-1989 藤平 明⁵⁸⁴
" " 1♂ 15-IX-1989 藤平 明⁵⁸⁴

他に赤穂⁷²⁶、三原⁷²⁶の記録がある。



姫路市豊富町神谷 1♀ 24-VIII-1978 山本邦明¹⁶¹
てんとうむし(6)23から転写

10 メスアカムラサキ

(*Hypolimnas misippus*)

国外では東洋熱帯に広く分布し、国内では八重山に分布する。

迷蝶として北海道から九州にかけて散発的に飛来して一時的に発生する。

県内の記録は1957年に明石市で目撃されたのが最初のものである。これまでに報告された記録は下記のとおりで、この他の記録として山本(1971)に赤穂市の名前があるが、詳しいことはわからない。

【採集記録】

- 尼崎市武庫川河口1幼虫 1983 石井
【神戸市】
灘区六甲学園内 1♂ 5-X-1969 杜 隆史⁷⁵⁰
須磨区旗振山頂 1♀ 23-VII-1964 橋本知代己⁷³⁰
垂水区ジェームス山 1♂ 27-IX-1959 青山潤三
" 東舞子 2令3頭 17-X-1982 勝屋 潤²⁷
(スベリヒユから 3♀ 羽化7~10-XI-1982)
" 五色山町 3令2頭 24-X-1982 勝屋 潤²⁷
(スベリヒユから 2♀羽化 11-XI-1982)
長田区高取山 1♂撮影 30-VII-1998 笹倉 智⁵⁶²
明石市北王子町 1♂(目) 16-VIII-1957 山口福男⁷³⁰
姫路市山田町 1♂ 15-X-1967 上田倫範
姫路市網干区材木港 1♂ X-1980 尾崎 勇¹¹⁷
相生市川原町 1♀ 25-VIII-1966 石井満補⁷⁹⁷

11 アオタテハモドキ

(*Junonia orithya*)

国外ではアフリカから中近東、セイロン、ヒマラヤ西部から中国大陸西南部、スンドラランドからスラウェシ、ニューギニア、オーストラリア北部、南米、北米まで分布する。国内では九州南部から南西諸島まで記録されているが、定着しているのは八重山諸島のみである。

県内の記録は、谷口(1938)によれば、1937年に塚本信雄氏(当時甲南高校尋常科生徒)によって明石郡垂水町(現在の神戸市垂水区)で採集されたことが報告されている。

【採集記録】

- 神戸市垂水区 1ex -- VIII-1937 塚本信雄²⁹⁴

12 シータテハ

(*Polygonia c-album hamigera*)

国外では朝鮮半島、台湾、中国からヨーロッパにかけて広く分布する。国内では北海道、本州、四国、九州に分布しているが、本州西部から四国、九州では生息域が局限される。

県内での採集記録はすべてが半世紀前の古いもので、近年の採集記録は無い。

本種は中国山地では昔はそれほどめずらしい種ではなかったようであるが、近年全く見られなくなった。食餌植物であるハルニレ、オヒョウは今も健在である。但馬に隣接した鳥取県智頭町芦津で1985年11月に採集されたのが一番最近の記録のようである。

■ 生息環境

県内の生息環境は不明であるが、他県では山地の落葉広葉樹林や林縁の草地、溪流や林道などで見られる。採集記録による垂直分布は1000m以上の高地から100m以下の低地まで見られるが、記録が少ないこともあり、生息場所の垂直分布に特徴は見られない。

■ 生態

【成虫の発生時期】

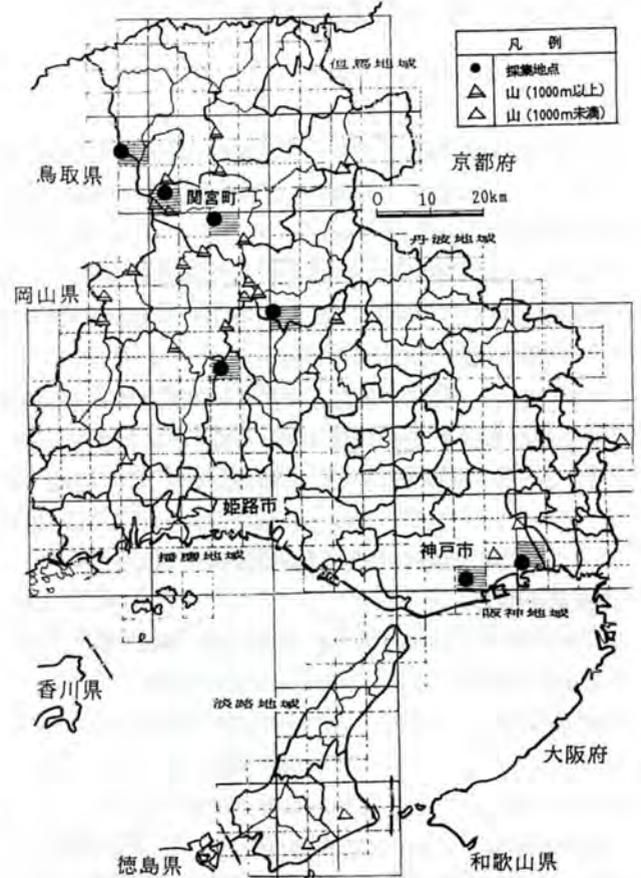
西日本の他県では6月中下旬～8月上旬と8月中旬～10月上旬の年2回発生するが、県内で確認出来た発生時期は7月だけである。

【食餌植物】

他県ではニレ科のハルニレが主要な食餌植物となっているが県内では確認されていない。

■ 採集記録

神戸市御影		1901	樽谷明吉 ¹⁰
〃 鳥原貯水池付近			田中靖也 ¹⁰
姫路市夢前町雪彦山 ¹⁰			
西播		1909	井口宗平 ¹⁰
朝来市生野町栃原	2exs	13-VII-1952	西村公夫 ¹⁰
養父市大屋町 筏	1♂	VII-1956	中尾淳三 ¹⁰
養父市(関宮町) 氷ノ山福定	1♂	VII-1954	吉阪道雄 ¹⁰
〃 〃 能次		1955	山本広一 ¹⁰
〃 〃 春米	1♀	VII-1954	吉阪道雄 ⁷⁰⁶
〃 〃 地藏堂	1♂(日)	〃 〃	
新温泉町(温泉町) 扇ノ山 ¹⁰			
氷上郡下 ¹⁰			



シートテハの県内分布

13 ギンボシヒョウモン

(*Speyeria aglaja*)

国外では旧北区全域に広く分布し、国内では北海道、と本州中部以北に分布する。

県内では神戸市の須磨付近(北村達郎, 1935)、同市岡本(実川佐太郎, 1938)、六甲山麓(加地早苗, 1940)、氷ノ山(遠藤勉, 1960)などが山本(1665)で報告されているが詳しい記録はわからない。

最近の記録としては、六甲山上で1975年7月20日に得た標本の中に2♂が含まれていたという記録(加藤、武衛, 1981)がある。

本種の過去の記録が氷ノ山の1例以外は全て六甲山周辺であるが、本来の分布域とは大きく離れ、また多くの採集者が訪れる六甲山でその後全く採集されていない。

14 クジャクチョウ

(*Inachis io geisha*)

国外ではユーラシア大陸の中北部に広く分布し、国内では北海道、本州の中部以北に分布する。

県内では、林久男氏が北野中学に在籍の頃、同校の人が神戸市岡本付近で本種を2頭採集したという記録がある(吉阪・1953)この記録が唯一のものである。

15 キベリタテハ

(*Nymphalis antiopa asopos*)

国外ではユーラシア大陸の北部から北米大陸、メキシコなど極めて広い分布域をもち、国内では北海道、本州の中部山岳地域以北に分布する。

県内の記録は、高橋(1941)によると、富田竹二郎氏が再度山にて記録したようで、再度山、布引付近にいるらしいと記されている。この他には六甲山で富田林の田中保氏が採集されたことが昆虫世界46巻543号に報告されている。

1956年7月26日には、丹波市市島町上竹田の標高200m付近でも採集されており(藤田 1957)、この標本は新鮮な個体で山本広一氏が確認している。

その後、洲本市の三熊山で藤平明氏によって目撃されていることが登日(1974)に報告されている。



神戸市西区で発生したカバマダラ
2002年10月6日撮影

16 カバマダラ

(*Anosia chrysippus chrysippus*)

迷蝶として飛来する頻度の高い種である。

県内では8月から9月にかけて多くが採集されており、いずれの記録も1頭であつたが、1978年に姫路市網干区の木材港にて一挙に16頭もの個体が採集された。

2002年には9月28日に松重和太氏が神戸市西区岩岡町印路で2頭確認、10月4日にこの地点から3km北東の西区神出町宝勢で多数の個体を確認した。また10月6日に同地で立岩幸雄氏が40~50頭を確認している。この場所は池の堤の下、南西に開けた日によく当たる平らな場所で、トウワタの花畑が2箇所(10m²、5m²)それぞれ数十株がびっしりと茂っていた。数年前に地元の方が播種し、前年はわずかに数株であったのが、この年爆発的に茂ったそうである。

10月6日の観察では産卵、幼虫、交尾を確認している。その後10月12日、18日の観察でも交尾、産卵、弱令、終令幼虫、蛹と全てのステージが見られた。11月3日、10日には成虫は見られなかったものの、弱令、終令幼虫、蛹は多数観察できた

姫路、神戸両例ともに、7月~8月ごろに何かの要因で運ばれてきた母蝶が産卵し、一時的に世代を繰り返したのではないかと思われる。

本種の食草はガガイモ科のトウワタ、フウセントウワタで、ガガイモも食べるようなので、これを代用食として発生したことも十分考えられる。

【寄生】

2002年に神戸市西区で発生したカバマダラの蛹からヤドリバエ *Senometopia prima* (Baranov) 1♂1♀が発生したことを高島千洋氏が確認している。

【採集記録】

姫路市網干区木材港	16exs	中旬-IX-1978	代田幸治 ⁵¹³
宝塚市高司	1♂	12-VIII-1970	藤木敬明 ⁵²²
〃	1ex (目)	19-VIII-1970	平野雅親 ⁵²²
加古川市西神吉町	1♀	8-VIII-1965	吉住正和 ⁵²⁵
神戸市垂水区垂水町	1♂	1-IX-1978	加藤昌宏 ⁵³⁰
高砂市米田町古新	1ex	15-IX-1970	森田真澄 ⁵³⁴
神戸市東灘区本山町野寄	1♀	14-VII-1965	成瀬秀雄 ⁵³³
氷ノ山頂上付近	1♂	2-VIII-1957	中尾百代 ³⁹¹
洲本市大野	1♀	19-VII-1999	谷川大海 ²⁵⁹
神戸市西区岩岡町	2exs目撃	28-IX-2002	松重和太
神戸市西神出町	多数目撃	6-X-2002	立岩幸雄 ⁵²⁵

17 スジグロカバマダラ

(*Salatura genutia genutia*)

アジア熱帯に広く分布している。わが国では八重山諸島に分布し、迷蝶として各地でかなりの採集記録が報告されている。

県内では1931年の記録以降長らく本種の記録はなかったが、1994年の夏ごろに加西市のフラワーセンターで、井口英雄氏によって撮影され、この写真がフラワーセンターの写真コンテストに入賞して展示された。兵庫県では63年ぶりの記録である。

【採集記録】

西宮市森具字木津山 1ex 26-VIII-1931 宮本裕三⁵⁰¹
加西市豊倉町フラワーセンター 撮影 1994 井口英雄



加西市フラワーセンターで井口英雄氏によって撮影されたスジグロカバマダラ

18 ウスコモンマダラ (*Tirumala limniace*)

近畿、四国、九州と南西諸島に迷蝶として記録がある。県内での記録は、若井博史氏が甲山町五ヶ池付近で蝶の分布調査中に松林の中を飛んでいるものを採集したことが朝日新聞の1978年7月29日の朝刊に記されている。

また大阪昆虫同好会の連絡誌「のせ」7(3):451の情報交換室というコラムに、西宮市でウスコモンマダラ! というタイトルで、西宮市仁川で1978年7月に採集されている。そしてそのことは朝日新聞にも載ったと記されている。同一の記録の可能性もある。

2005年6月7日には朝来市山東町粟鹿麓で波多野哲哉氏が1♀を採集した。27年ぶりの記録である。

【採集記録】

西宮市甲山町五ヶ池 1♀ 5-VII-1978 若井博史⁵¹³
" 仁川 -VII-1978⁸⁰⁸
朝来市山東町粟鹿山麓 1♀ 7-VI-2005 波多野哲哉



朝来市で採集されたウスコモンマダラ
撮影 山下 博

その他の記録

過去に県内で採集されたと報告のあった種で同定の誤りと思われるもの、過失等で誤って他の地域のものであるものを採集したとして報告されたとと思われるもの、記録の詳細がよくわからないものなどを列記しておく

☆ ヤマキチョウ

(*Gonepteryx rhamni maxima*)

山本・吉阪(1965)によれば、井口(1907)の佐用郡産蝶類目録の中で、*Gonepteryx*の名を上げているが、佐用郡には同属のスジボソヤマキチョウが産するので、本種との同定誤りではないかと思われる。

☆ ヒメシジミ (*Plebejus argus*)

加地(1940)に“*Lycaena argus insularis* Leech シジミテフ”として六甲山麓(草原)にて福島氏に依り採集されたとの報告がある。しかし本種の発生時期は早くて6月中旬ごろからであること、その後の調査でもこの地域周辺から全く記録がないこと、また同時に記載

17 スジグロカバマダラ

(*Salatura genutia genutia*)

アジア熱帯に広く分布している。わが国では八重山諸島に分布し、迷蝶として各地でかなりの採集記録が報告されている。

県内では1931年の記録以降長らく本種の記録はなかったが、1994年の夏ごろに加西市のフラワーセンターで、井口英雄氏によって撮影され、この写真がフラワーセンターの写真コンテストに入賞して展示された。兵庫県では63年ぶりの記録である。

【採集記録】

西宮市森具字木津山 1ex 26-VIII-1931 宮本裕三⁵⁰¹
加西市豊倉町フラワーセンター 撮影 1994 井口英雄



加西市フラワーセンターで井口英雄氏によって撮影されたスジグロカバマダラ

18 ウスコモンマダラ (*Tirumala limniace*)

近畿、四国、九州と南西諸島に迷蝶として記録がある。県内での記録は、若井博史氏が甲山町五ヶ池付近で蝶の分布調査中に松林の中を飛んでいるものを採集したことが朝日新聞の1978年7月29日の朝刊に記されている。

また大阪昆虫同好会の連絡誌「のせ」7(3):451の情報交換室というコラムに、西宮市でウスコモンマダラ! というタイトルで、西宮市仁川で1978年7月に採集されている。そしてそのことは朝日新聞にも載ったと記されている。同一の記録の可能性もある。

2005年6月7日には朝来市山東町粟鹿麓で波多野哲哉氏が1♀を採集した。27年ぶりの記録である。

【採集記録】

西宮市甲山町五ヶ池 1♀ 5-VII-1978 若井博史⁵¹³
仁川 -VII-1978⁸⁰⁸
朝来市山東町粟鹿山麓 1♀ 7-VI-2005 波多野哲哉



朝来市で採集されたウスコモンマダラ
撮影 山下 博

その他の記録

過去に県内で採集されたと報告のあった種で同定の誤りと思われるもの、過失等で誤って他の地域のものであるものを採集したとして報告されたとと思われるもの、記録の詳細がよくわからないものなどを列記しておく

☆ ヤマキチョウ

(*Gonepteryx rhamni maxima*)

山本・吉阪(1965)によれば、井口(1907)の佐用郡産蝶類目録の中で、*Gonepteryx*の名を上げているが、佐用郡には同属のスジボソヤマキチョウが産するので、本種との同定誤りではないかと思われる。

☆ ヒメシジミ (*Plebejus argus*)

加地(1940)に“*Lycaena argus insularis* Leech シジミテフ”として六甲山麓(草原)にて福島氏に依り採集されたとの報告がある。しかし本種の発生時期は早くて6月中旬ごろからであること、その後の調査でもこの地域周辺から全く記録がないこと、また同時に記載

された種に疑問が残るものが多くあり、この六甲山の記録の5月13日は疑問が残る。

その後、1955年に養父郡西谷村筏(現在の養父市大屋町筏)で1頭(♀と推察する)が採集されたことが山本・吉阪(1965)に記されている。この標本は、採集者の中尾淳三氏から山本広一氏に贈られるはずであったが、展翅をしていたため郵送の際の破損をおそれ、中尾氏のもとで保管をしていたところ虫害にあい、1962年に山本氏が訪れた際にはすでに標本は破棄されていたとのことである。種の同定に当っては、横山光夫(1954)の原色日本弊類図鑑(保育社)を参照にしたようで、裏面が第50図の北海道産のヒメシジミに最も近似していたようである(山本・吉阪, 1965)。

この他には、1963年6月27日に、武田義明氏により、南あわじ市(南淡町)大日ダム周辺で1♀が得られたことが登日(1974)にある。

ヒメシジミは、北海道から九州にかけて生息地が知られているが、近畿地方では記録はあるものの確実な産地はない。近隣の中国地方では、本種の確実な生息地が知られているので、中国山地の東端に当る本県でも生息地がないとはいえないが、近年同好者も増え、以前と比較にならない程調査もよく行われているにもかかわらず、今のところ新しい採集記録は聞かない。

〈採集記録〉

神戸市六甲山麓 一13-V-1935 福島¹⁴⁸

養父市大屋町筏 1ex -1955中尾淳三⁹²

南あわじ市(南淡町)大日ダム1♀ 27-VI-1963 武田義明⁹⁶

☆ ミヤマカラスシジミ (*Fixsenia mera*)

谷口(1938)によると、“*Thecla mera* Janson ミヤマカラスシジミ”の種名を上げ「鳥原附近で採集されている」と記されているが、詳しいデータは報告されていない。それ以降は県内から本種の採集記録は聞かない。

☆ ルーミスジミ

(*Panchala ganesa loomisi*)

1948年8月10日に姫路市書写山で発見したらしいことが今本(1950)に報じられているが、その後同地から発見されていない。タイトルは「ルーミスジミの多産地」となっており、書写山に多く見られるムラサキシジミの同定まちがईと思われる。

☆ コヒョウモンモドキ

(*Mellicta britomartis nippona*)

国外ではヨーロッパから東アジアにかけてユーラシア大陸北部に広く分布し、国内では本州中部から関東北部の山岳地帯に分布する。

県内では、1910年に井口宗平氏が佐用郡下で発見したことを報告されているが、その後、1956年6月22日に井口氏の住所である佐用町(上月町)久崎から田中蕃氏によって近似種のウスイロヒョウモンモドキが採集されており、本種の同定誤りと思われる。

☆ オオミスジ (*Neptis alwina*)

国外では朝鮮、中国からロシア極東、モンゴルなどに分布し、国内では北海道南部から本州中部以北に分布する。

県下では1937年6月に一頭を六甲山にて発見したと報告されている。この報文の谷口(1938)によれば、「六甲山に極めて稀に産す」と記されている。また、加地(1940)にも六甲山の「山地に産すれど非常に稀なり」となっており、吉阪和親(1936)にも灘地方(神戸市)にも産することが報告されている。本種も過去の採集記録が六甲山周辺であり、その後はオオミスジの記録はない。六甲山には近似種のミスジチョウが産するので、本種の同定誤りの可能性が高い。

☆ アカセセリ (*Hesperia florinda*)

加地早苗(1940)に「六甲連山の山地に産するも稀ならず」とあるが、本種は滋賀県以西には記録がないこと、「稀ならず」と記されていることから判断すると、ヒメキマダラセセリ等との同定誤りではないかと考えられる。

☆ チャマダラセセリ

(*Pyrgus maculatus maculatus*)

本種は北海道東南部から東北、関東、中部地方を経て、四国まで分布しているが、近畿地方には生息していない。

県下における記録は、加地早苗(1940)に「非常に稀で、1935年7月下旬東六甲山にて採集せしのみ」となっている。

加地早苗(1940)には、ヒメシジミ、オオミスジ、ギンボシヒョウモン、ヒョウモンモドキ、アカセセリなども六甲連山の記録として報告されている。